

津波被害を受けた町の景色の保存

プロダクトゼミ

A2201015 佐々木 南都

■制作意図

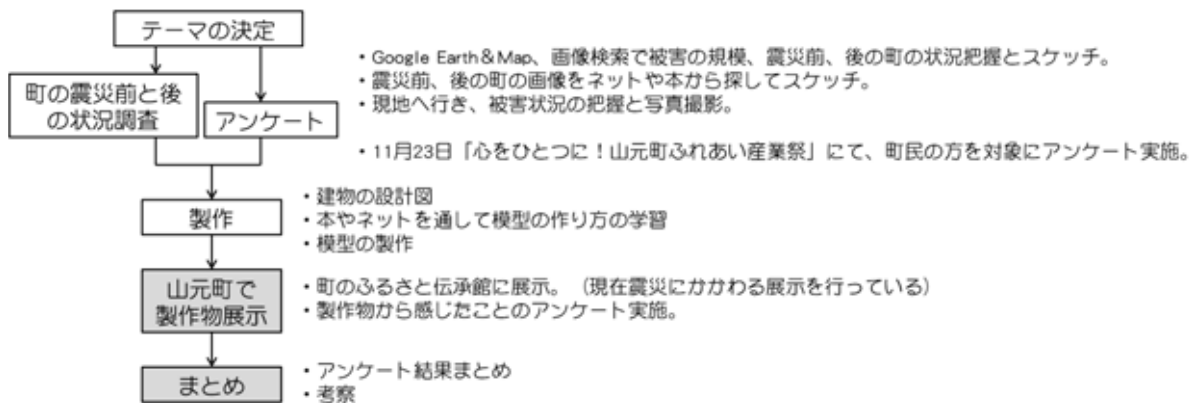
2011年3月11日14時46分、東日本大震災が起きました。沿岸部では津波による大きな被害を受けました。私の実家がある宮城県山元町も被害を受けた町のひとつです。

私は約2年間ものづくりについて学んできました。そのような中で今回の大震災を経験し、自分が短期大を卒業する前に形にすべきものは何かを再考しました。その結果、自分の生まれ育った町の人々へ何かを与えられるモノを制作するという考えに至りました。

町へ帰るたびに思うことは、かつての景色が次々となくなっていくということです。震災時、津波に流された建物が多くありました。一方、津波の被害を受けても流されずに残った建物も多くありました。しかし現在はそれらの建物も日に日に取り壊されています。また震災前まで水田や畑だった場所が、違った目的の用地へと変わってしまった所もあります。これから町では安全性を考慮したまちづくりが行われ、さらに町の景色は変わっていきます。同じ景色は2度と戻りません。その事実を目の前にし、思ったことがあります。それは例えどんなに素敵な町として生まれ変わっても、人々の心に残る震災前までの町の雰囲気や記憶、海風の香るあの町の良さを消してはいけないということです。震災前までの町の記憶は、その土地に住んでいた人々にとってかけがえのないものです。毎日そこで生活し見えていた景色は、人々に安心や人との繋がりを感じさせ、たくさんの思い出があったはずで、それが震災直後から失われ続けています。その記憶と思いを消してしまわないように、私は元の町の景色や雰囲気を模型として保存し残していこうと考えました。立体での表現は、現在残っている写真などでは感じ取れない建物同士の全体的なつながりや奥行きを感じることができます。それによって目線の先に広がっていたかつての景色をもう1度体感することができます。また模型はモノとしてそこにあったという存在感が伝えられるので、より人々の記憶に寄り添うことができ、町の元の雰囲気を感じられるはずで、一方で、模型として残すことで、その土地にそのモノが形としてあったということを他の土地の人や後世にも伝えていくことができると考えます。



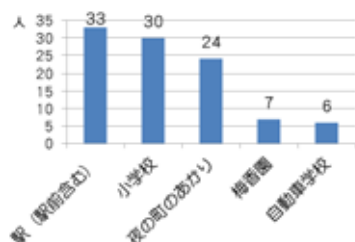
■工程



■アンケート

町民の方を対象にアンケートを実施。

1. 震災前の町の風景がもう一度見るとしたら、どの場所（風景）を見てみたいと思いますか？

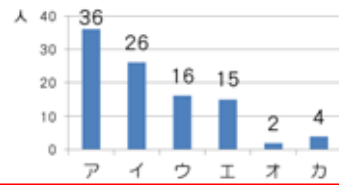


その他の場所	人数
海 (磯浜)	5
自宅付近の風景	3
新浜	3
防風林	3
電車が走っている風景	2
笠野	1
牛橋河口	1
サンライズビーチ	1
東保育所	1
八重垣神社	1

1より、模型を製作する場所を『駅』に決定。夜の町のあかりを見たいという方も多いことから、あかりも模型に組み込む。

2. で答えた場所(風景)
が見たいと思った理由は
何ですか？

ア：昔の風景を忘れたくない。
イ：町の雰囲気を出したい。
ウ：復興への力になりそう。
エ：他の土地や後世に震災前の町を伝えたい。
オ：特に理由はない。
カ：その他



2より、模型製作の必要性が十分あると感じた。震災前の風景と雰囲気を、模型を見た人が思い出せるように、細部まで作り込んだ実物に近い模型を製作する。→作れる範囲は狭くなってしまいが、1:100で製作し、色や質感なども実物に近い表現を目指す。

■製作過程

- ・実際にその場所に足を運んだ

それぞれの建物の状態の把握。模型にする建物で形が残っているものを撮影（図面を引くときに役立った。）かつて建物の外壁に飾られていた絵（現在は役場に置かれている）を撮影（写真は実際に模型に使用）。

- ・スケッチ

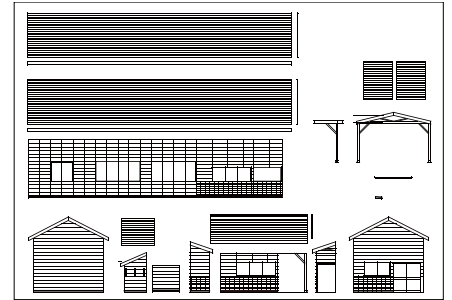
大きさがゆがんで見える写真や画像をできる限り正確にスケッチ。→どこまで作り込めるか検討。

- ・インターネットの活用

Googlemap：建物同士（景色同士）の繋がりの把握。建物のおおよその大きさの把握（距離測定ツールの活用）。



Googleの画像検索：スケッチ～図面～模型製作の時に大きさや形、配色の把握。



模型の作り方、材料についての検索：土台から建物、木やあかりを使った模型の表現方法などの把握。模型製作の手順の把握。

- ・本の活用

「ラクラク建築模型マニュアル」：必要な道具や模型の作り方のコツ、模型製作の手順やテクスチャの表現方法の把握。

「海と風と町」：町の方にお借りした本で、ストロベリーラインの様子を知るのに役立った。また津波の被害にあった建物などを知ることができた。

- ・製作と仕上げ

■検証

町の文化施設に展示。模型を見て下さった方に、次の項目をアンケート調査します。

- ・風景の保存が正確にできているか。
- ・かつての雰囲気が伝わってくるか。
- ・模型を見たことによって何か感じたことはあるか（懐かしさ、思い出、心苦しさ、悲しさ、復興への気持ち、地元を愛する気持ち、人と人とのつながり…など）

■考察

模型を製作するにあたり、はじめはプロダクト分野ではなく、インテリア分野のものづくりになってしまうのではないかという不安がありました。しかし実際は、研究を進めていく中で自分がゼミで学んできたことを多く活かすことができました。町の方々に直接アンケートを取らせていただいた時に「こういうふうみんなの意見を聞くことが大切なんだ」と声を掛けてくださった方がいて、いつもゼミで行うアンケート調査や市場調査の重要性を改めて実感しました。そして1つのものを作るために、たくさんの情報収集と失敗があり、それがものづくりをする上で大切だということがわかりました。